

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	畜産課長 田邊 裕彦	電話番号	0852-22-5132
----------	------------	------	--------------

事務事業の名称	肉用牛低コスト生産対策事業		
目的	(1) 対象	畜産農家	
	(2) 意図	和牛繁殖経営における低コスト生産技術・体制の確立・普及を進めることによって、経営の安定化と飼料自給率の向上を図る。	
事業概要	放牧拡大に向けた実証展示及び放牧実践支援体制の充実を図る。また、繁殖和牛の低コスト生産や省力化の取組のモデル実証を行い普及啓発を図る。繁殖和牛経営体の新たな担い手として集落営農組織等による省力・低コストな放牧による和牛繁殖を推進する。配合飼料価格高騰に対応するため、飼料米の生産拡大により、飼料自給率の向上を図る。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			繁殖雌牛放牧頭数	目標値		3,100	3,250	
式・定義	当該年度における繁殖雌牛の放牧頭数	実績値	3,089	2,976	3,088	3,160		
		達成率		96.00	95.00	90.30		%
式・定義	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			繁殖雌牛放牧頭数	目標値		7.00	8.00	
式・定義	当該年度のコントラクター組織数	実績値	6.00	7.00	8.00	9.00		
		達成率		100.00	100.00	100.00		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	11,194	8,565
うち一般財源(千円)	11,194	8,565

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 平成26年度の繁殖雌牛の放牧頭数は3,160頭と微増傾向にあるが、目標には達していない。
- コントラクター組織数は、新たに1組織が設立され、稲WCSの受託作業を行っている。
- WCS用稲の栽培面積は増加傾向にある（H25：308ha→H26：390ha）。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 放牧牛等の賃金の支援を実施し、集落営農組織等でお試し放牧を実施したところ、各所で放牧の良さが実感されつつある。
- 事業の活用により、放牧牛の導入に結びついた集落営農組織等がある（目標18頭→実績25頭）。
- WCS用稲の生産面積及びコントラクター組織の受託面積が拡大している。
- 飼料用米の流通・保管に係る経費を補助した結果、安定的な流通に結びついている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 集落営農組織による新規参入には時間を要する。

②困っている状況が発生している「原因」

- 集落所有の牛を導入するには、子牛の育成等の技術に不安があることから、決断に時間を要する。

③原因を解消するための「課題」

- 繁殖牛の導入や施設整備にかかる初期投資を軽減するとともに、飼養管理技術の不足を補う支援策として、共同子牛育成施設や共同繁殖牛管理施設等の設置を進める必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 放牧を利用した和牛繁殖経営に取り組む集落営農組織等に対して、繁殖牛の導入や施設整備への支援を行うとともに、飼養管理技術の不足解消のため、共同子牛育成施設整備等の支援を行う。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）